暮らしの学校だいだらぼっちの紹介
@銀座NAGANO

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター
専務理事・事務局長　齋藤　新

●グリーンウッドが活動する泰阜村

- 人口1531人
- 国道も信号もコンビニもない
- 秘境駅ランキングTOP10に2駅に
- 小中学校が1校ずつ
- 天竜川とその支流に囲まれた自然

不便な暮らしを生き抜く知恵と協働性

「1年間のキャンプがしたい!！」

米を育てたり、畑を耕して食べ物が作れる！
食器や家具だって作れる！
もしかしたら家だって作れる！
全部自分たちで作れる暮らしができる！

●グリーンウッドが活動する泰阜村

現在のだいだらぼっち

今年のこどもたち
小学生9名・中学生9名
（女子12名・男子6名）
MICKEY MOUSE

毎年18名の小中学生が全国から集まり1年間暮らす

暮らしの学校だいだらぼっちとは？

- 全国から集った小学4年～中学3年生までの18名の子どもたち（2022年度）
- １年間の共同生活を営みつつ村の小中学校へと通う
- こどもが食事や風呂たき、掃除、洗濯など、暮らしの一切を手掛けていく
- 暮らしのルール、スケジュール、困りごとは全て「話し合い」で決める
- 民間NPOが運営する37年目の活動

暮らす

自分たちの手と足と知恵を使って

話し合い

で決める

薪

86％が森林の泰阜村。こどもたちが手に入れられるエネルギーとして薪を選択。山から薪を出し、自分たちで割る

田畑

放棄農地を活用。年間600kgほどの米と野菜を育てる。こどもたちは田畑の達人のお年寄りを「かっこいい！」と尊敬。

鶏

卵を得るために飼育。残飯をエサに、フンは肥料にするなど循環の役割も。ふ卵器で孵すことに挑戦したり、絞めた鶏を食べるなど本物の食育の場にも

2022 R4 9/29 by あーちゃん ふーみん
2013年～
毛の色：うす茶色
卵の色：？
特ちょう：よくねる
しっぽが黒い
おだやかな目
ぼっくらしている。
2019くらい～
毛の色：うす茶
卵の色：うすい茶色
特ちょう：目がオレンジ
いっぽ：がしろい。
2019～
毛の色：白
卵の色：白。ぽい
特ちょう：いちばんにわとり
ぽっぽ 足と口ばしは黄色。
2020年～
毛の色：茶色
卵の色：茶色
特ちょう：生命力強い！
米が好き
2021年～
毛の色：白い
卵の色：白。ぽい
特ちょう：うこっけい
こうきしんおうせい!!
2019年～
毛の色：白
特ちょう：うこっけい
とさかが赤。むらさき
みんなを守る。
2019年～
毛の色：白
特ちょう：うこっけい
とさかが黒。ぽいむ
らさき。みんなを守る
だいだらぼっちでは、にわとりの命やたまごをいただき、畑の野菜などの新たな命をうみだしているよ。
野菜くずを食べる
にわとりのサイクル
野菜くず
にわとりがたまごをうむ
たまごや命
にわとり
にわとりのふん
畑の栄よう
野菜を育てる
2022年～
毛の色：茶色
特徴：くっしんぼう
クローバーが好き
2022年～
毛の色：白
特ちょう：毛がいろいろ
人と行動しがる
2022年～
毛の色：白。少し茶色
特ちょう：みんな
と仲どうしたがる。
クローバーが好き。
2022年～
毛の色：白
特ちょう：にげ足が
早い

遊び

村の自然、信州の自然が遊び場であり、成長の場。遊びはこどもたちが全て発案、計画を立てて行う。

自然の恵み

四季折々の恵みを採ったり、食べ物を作ったり、染め物をしたり。

陶芸

暮らしで使う食器は全てこどもの手作り。
1250℃で焚く登り窯もこどもが行う。

小屋建設

必要な建物は山から材を出して建設することも。大工さんに教わるホンモノと触れ合う機会に。

木工

箸にはじまり、スプーンやフォーク。お皿やイス、机などこどもの興味によってなんでも手作り。材料は山から取り放題。

循環

生ごみをたい肥に。鶏のフンは肥料に。ストーブの灰やワラを燃やした灰を釉薬に。暮らしから出たものを最大限使い切る。

一人
一票

大人もこどもも一人一票。多数決ではなく、全員で決定する話し合いで、だいだらぼっちの暮らしは決められる

卒業したこどもたちはどうなるのか？

人それぞれ

とりあえずやってみる
ハードルが低い

主体性・創造力

多様性・協働力

誰とでもそれなりに
仲良くやれる

ひと

環境保護を訴えて学校を回る大学生

露木（つゆき） 志奈（しいな） さん(19)

プラスチックのストローは使わない。マイボトルを持ち歩く。家では再生エネルギーの電力会社を選んだ。都内の学校で昨年末、自身が意識している小さな選択について語った。「一人ひとりが行動すれば、世界は必ず変えられる」

昨秋、1年通った慶応大学環境情報学部を休学。11月から環境活動家として、全国の小中高校を回る講演を始めた。

横浜中華街で育ち、幼い頃から自然が大好き。小学4、5年の時は長野県泰阜（やすおか）村へ山村留学した。ただ中学ではテスト勉強が苦手で、英語の成績が5段階評価の1だったこともある。そんな娘を思い、母は合いそうな学校を海外に探しあてた。インドネシア・バリ島のグリーンスクール。ジャングルの中にある竹の校舎で、電気や食料を自給する私立校だ。

教科書のない学校に留学し、天然素材の口紅作りにとりくんだ。環境問題にめざめた転機は、現地で見たゴミの山だった。「私たち消費者が変わらなきゃ」。2018年と19年には国連の気候変動会議で欧州へ。スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん(18)にも会い、刺激を受けた。

思いを伝えた子どもたちは3千人を超えた。目標は47都道府県で21万人に話すことだ。「100人のうち動いてくれるのは2、3人でもいい。同世代だからこそ、伝わるものがあると思う」

文・西村悠輔　写真・上田幸一

◇◆◇　評価された教育　◇◆◇

★環境省グッドライフアワード優秀賞（2021）

★信州協働大賞（2017）

★地域づくり総務大臣表彰（2012）

★読売教育賞最優秀賞（2009）

他

参加について

募集要項

名称	暮らしの学校　だいだらぼっち
運営	NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター
期間	２０２３年４月１日より ２０２４年３月３１日までの１年間
定員	１８名程度
大事なもの	**本人のやる気**
持ってきては いけないもの	**親の期待**
申込みの流れ	（１）参加仮申し込み提出 （２）事前体験合宿 （３）第一次考査　書類考査 （４）第二次考査　親子面接
費用	月額負担金10万円・契約時納入金33万円（村からの補助あり）

参加の流れ

①仮申し込み書

郵送にて「参加仮申し込み書」を提出していただく

＜参加仮申し込み書類受付＞
2022年7月1日 (金)　～

②だいだらぼっちより体験合宿のご案内

提出していただいた「参加仮申し込み書」を確認させていただき、お電話にて現地面談のご連絡いたします。

③「体験合宿申込書」を提出していただく

「現地面談申込書」をお送りしますので、メール、FAX、郵送のいずれかにて提出していただきます。

④体験合宿

参加を希望する児童生徒がだいだらぼっちで1泊2日を暮らし体験をする中で、3者それぞれが次の段階に進むかを判断する。

⑤参加本申込み書類提出（第一次考査）

　参加を希望する場合は「参加本申込書」、「ご本人による作文」、そのほか必要書類を提出していただきます。

⑥親子面接（第二次考査）

第一次考査通過の方は暮らしの学校「だいだらぼっち」にて親子面接（**12月末**）を行います。

2023年度合否決定